

※本資料は、令和8（2026）年8月1日、玉名市文化センター（中央公民館）大研修室で開催予定だった「くまもと戦争遺産被災レスキュー」「長崎被爆体験証言会と紙芝居 II」事業が、令和8年7月28日に発災した「令和8年熊本地震」により延期されたことに関わる講話資料です。 20260801版

「熊本地震から10年 くまもとの戦争遺産被災レスキュー」の概要

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷 和生

1 はじめに

本資料は、2019（平成31）年熊本市で開催された「第23回戦争遺跡保存全国シンポジウム熊本大会」での「地域報告「熊本の戦争遺跡 ～現状と熊本地震被災から復興～」を基にして、本展示会での戦争遺跡の保存・調査状況及び戦時資料の被災レスキュー概要をまとめたものです。

熊本県内の太平洋戦争期の戦争遺跡総数は、多数の特殊地下壕を含めた「723件」となり、次の「7項目の熊本県戦争遺跡特徴」があげられます。

①軍都熊本市の軍事施設

～熊本城から東部の大江・渡鹿地区への軍施設の移転～

②九州で三番目に多い陸海軍飛行場

～本土決戦に向け、地下にもぐった飛行場施設～

③東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所

～軍直営で石炭を原料とした黄色火薬の生産～

④三菱重工業熊本航空機製作所と学校・地下工場 ～陸軍四式重爆撃機「飛龍」の生産～

⑤本土決戦のための天草地区の砲台、震洋等の特攻艇基地と人吉地区の地下工場・地下壕群

⑥県内各地に残る空襲・戦災の「被害の歴史」

⑦朝鮮人や中国人、連合軍俘虜労働の「加害の歴史」



□「平成28熊本地震」で被災の熊本城

2 熊本県内戦争遺跡の指定等と平和資料館等の現状

熊本県内の指定登録文化財は国148件、県383件、市町村3,382件、国登録文化財156件の計2,382件です。そのなかで近現代戦争遺跡の指定登録は次の通りです。 ※平成31年2月末現在

（1）西南戦争期の指定等

西南戦争遺跡群（国指定、熊本市・玉東町）、明德官軍墓地（熊本市）、七本官軍墓地（熊本市）、花岡山陸軍埋葬地（熊本市）、旧輜重兵六聯隊衛兵所（熊本市）、有栖川の宮御督戦の地（玉東町）、篠原国幹戦傷の地（玉東町）、城の原官軍墓地（南関町）、肥猪町官軍墓地（南関町）、陣内官軍墓地（水保市）、下岩官軍墓地（和水町）、高瀬官軍墓地（玉名市）、田浦官軍墓地（芦北町）、峰崎官軍墓地（芦北町） 以上の「計14件」です。

（2）太平洋戦争期の指定等

「花房飛行場給水塔」（陸軍菊池飛行場高架水槽・菊池市指定有形文化財）、「永山の掩体壕」（陸軍人吉秘匿飛行場木製有蓋掩体壕・球磨郡あさぎり町登録文化財建造物）の2件です。また、合志市の「黒石原飛行場奉安殿」は、保存修復事業を進めており、完了後に合志市指定文化財への動きもあります。

（3）平和資料館等の現状と今後に向けて

熊本県内展示施設は西南戦争期では「田原坂 資料館（熊本市立・平成27年11月リニューアルオープン）」があり、太平洋戦争期では「菊池飛行場ミュージアム（民間・平成26年8月）」「荒尾二造平和資料館（民間・平成30年5月）」「人吉海軍航空隊基地資料館（錦町立・平成30年8月）」が展示施設として運営されています。また、開設趣旨は異なるが陸上自衛隊内の防衛・戦史史料室2館が開所しています。

これら市民グループが運営する両資料館では、年間の維持管理費の確保、入館者数の維持等の課題があがっています。また錦町立資料館では、引き続き戦争や戦争遺跡を美化したり、「歴史事実の歪曲・矮小化」が危惧されています。

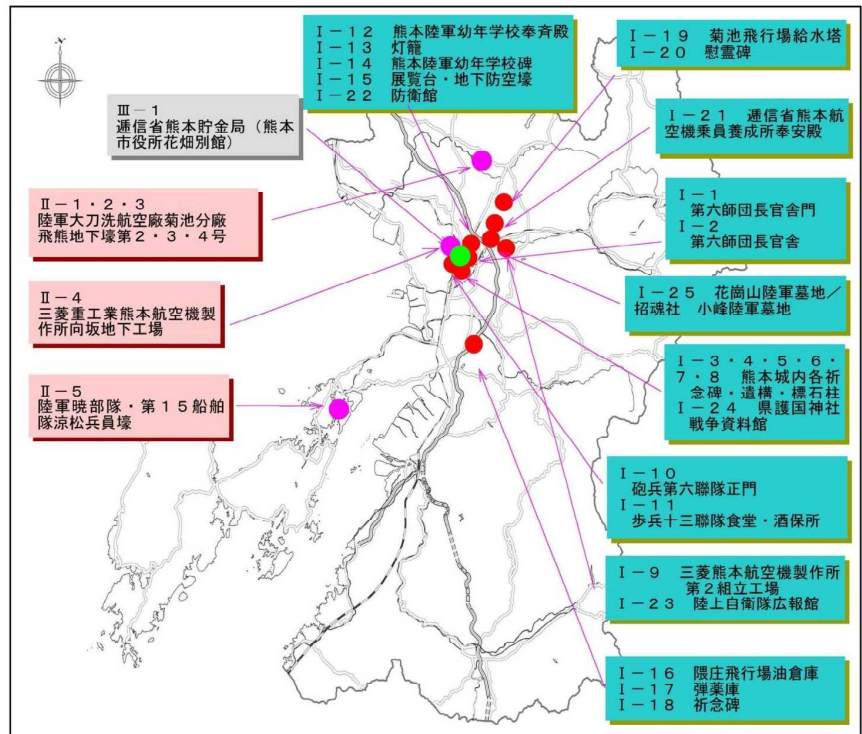
平成30年5月より、熊本に戦争と平和のミュージアムを設立しようと県内戦跡保存団体の連絡

会議である「戦争遺産フォーラムくまもと」と、戦時体験世代の方々が多く参加されている「新老人の会熊本 戦争を語り継ぐ会」や個人有志で「ピースくまもと設立準備会」が発足しました。さらにこの運動は「一般社団法人くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会」として体制強化し活動を継続、設立を目指しています。

3 「平成28年熊本地震」での被災から復旧へ

平成28年4月14日・16日熊本県地方を襲った二度にわたる震度7の激震、1,850回を数える余震で、特別史跡「熊本城」、城下町を形成した「新町・古町地区」の街並み、国重文「阿蘇神社楼閣」、熊本の近代を形創った洋学校「ジェーンズ邸」をはじめ、県内の多くの文化財が被災しました。

未指定文化財が多くを占める太平洋戦争期の戦争遺跡の被災状況については、第20回戦争遺跡保存全国シンポジウム長野松代大会で地域報告「熊本地震での戦争遺跡被災状況と復興に向けて」の通りです。その時点で、第六師団長官舎門等の「建造物・記念碑・資料館：25箇所」、陸軍大刀洗航空廠菊池分廠飛熊地下壕第2号壕等の「特殊地下壕：5箇所」、通信省熊本地方貯金支局の「その他：1か所」の「計31箇所」でした。詳細は、高谷和生「平成28年熊本地震での戦争遺跡被災状況と震災遺産としての保存」『第3回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会報告集』2017、高谷和生「平成28年熊本地震での県内戦争遺跡の被災から復興へ」『第6回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会報告集』2019 空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会実行委員会を参照ください。



□平成28年熊本地震で被災した県内戦争遺跡・遺産の被災状況

2016年8月段階

(1) 未指定の歴史的建造物「限庄飛行場油倉庫」の記録保存・公費解体

特に限庄飛行場「油倉庫」は全壊となり、その重要性から「熊本地震で被災した“陸軍限庄飛行場の油倉庫・弾薬庫”を熊本地震の震災遺産として保存」を、平成26年8月21日松代大会で特別決議していただきました。そして戦争遺跡保存全国ネットワーク及び戦争遺跡保存全国ネットワーク四国、文化財保存全国協議会等の支援を受け、熊本地震の記憶とその伝承に関わる「被災レスキュー活動」として「3Dデジタル測量」等での記録保存を行いました。

また、先述の長野県松代大会決議文を基に、9月27日熊本市長に「陸軍限庄飛行場油倉庫・弾薬庫の近現代遺跡・震災遺産としての保存」を文書郵送にて要望、県には10月20日同趣旨で面談要望、11月10日には改めて熊本市長手渡し説明による「震災遺産としての保存」を再度要望しました。しかし、公費による解体期限の期日もあり、一部部材の熊本市での保管、隣接する弾薬庫横への移設等は実現したものの修復費の所有者1/3負担の壁もあり、平成29年9月公費解体となりました。また、陸軍傷痍軍人療養所 再春荘の給水塔、通信省熊本地方貯金局(熊本市役所花畑町別館)も解体されました。



□熊本地震で被災した陸軍限庄飛行場油倉庫の西側壁の崩落状態

(2) 市指定文化財「花房飛行場給水塔」の修復

旧花房開拓団水道組合が所有する「花房飛行場給水塔」は、太平洋戦争期の戦争遺跡としては

熊本県内初となる平成22年9月菊池市指定文化財となりました。熊本地震によるモルタル剥離や経年劣化等もあり、平成30年9月～12月で「熊本地震に伴う文化財災害復旧事業（国6分の1・市町村3分の2・所有者“6分の1”の補助率）」を利用し、駆体の耐震調査や補強は未実施であるが、露出鉄筋の錆止め、表面モルタル除去、再モルタル塗布、再塗彩に限って修復が行われました。

（3）未指定「歩兵第十三聯隊食堂・酒保所」の修復

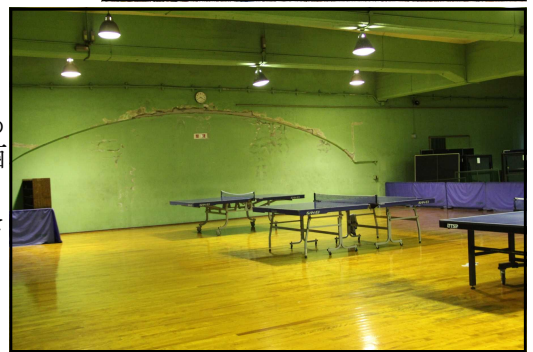
熊本学園大学構内に残された「歩兵十三聯隊食堂」は大正末～昭和初期にかけて建築された、熊本市大江地区に残された唯一の軍施設である。地震による被害は天井亀裂・部室天井モルタル落下等であったが、大学施設として、亀裂部の補修等に合わせ、天井からの落下物受け網の設置、建物再塗装の補修が独自でなされた。また、倒壊した隈庄飛行場「碧空に祈る記念碑」等や入口へ土砂が流入した「陸軍大刀洗航空廠菊池分廠飛熊地下壕第2号」等でも、個人・所有者が「自助努力」として現状復旧・修復を行いました。



（4）個人の戦時資料「熊本地震被災レスキュー活動」の調査と収集

地震被災による建物解体に伴い、個人が所蔵されている戦時資料の収集を6箇所（熊本・阿蘇・宇城・八代・西原・八代）約80点を収集しました。主な救済資料として、出征幟・額装の教育勅語・慰問袋、「至誠」銘額、寄書き日章旗、軍服・軍帽・歩兵第十三聯隊写真帖、軍隊手帳・陸軍認識票、訓練用手榴弾等です。

ただ、被災地域全域でのこの活動への啓発は不十分で、個人及び新聞報道後のレスキュー依頼に留まりました。戦時資料の価値性を理解していただくため本会では、熊本市城南図書館・熊本市立図書館等で「夏の平和展」を開催していましたが、今後は資料説明会や持込調査会を設定するなど、一般を対象とした日常での調査等のシステム構築を進めている。



□被災直後の「花房飛行場給水塔」
□「歩兵第十三聯隊食堂」の被災

4 結 語 ～熊本地震からの復旧・復興～

今回の熊本地震では、発生当初は民間の救済事業「熊本被災史料レスキューネットワーク」「戦争遺跡・戦時資料のレスキュー事業」「被災町屋レスキュー相談活動」が先行し、その後国・県等の事業が後追いしました。国・県による歴史的建造物対象の「文化財レスキュー事業」「ヘリテージマネージャーによる文化財ドクター事業」や絵画彫刻・工芸品、古文書、有形民俗文化財を対象とする「被災文化財レスキュー活動」も稼働し、未指定文化財の救済を目的とした「熊本地震被災文化財等復旧復興基金」も2016年10月に設置され、その総額は38.4億円が積み上げられました。

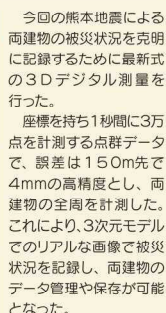
今回70数年前の戦禍をくぐり抜けた戦争遺跡である隈庄飛行場油倉庫等を、熊本地震の「震災遺産」として認定し併せて保存することは、これから全国どこでも起こりうる次の震災へ備え、記憶を継承する「戦争遺跡・震災遺産の保存」の新たな活動と本会等では捉えました。

だが、未指定文化財が多くを占める被災戦争遺跡の復旧・復興の為には、日本建築学会作成の「歴史的建築総目録データベース」へ未登録である事、文化財ドクター事業での専門家であるヘリテージマネージャーの派遣が出来なかった事、さらには戦争遺跡に対しては歴史的建造物としての価値性認識が十分でない事、修復対象としての市町村推薦も得られなかった事等、「公助」対象とする認識や、「共助」とするための活動が未成熟でもあり「創造的復興」には至っていません。

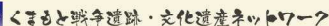


□熊本県上益城郡美里町の民家からレスキューされた戦時資料の数々

実測凶篇



弾薬庫復元では、油倉庫と同様に鉄扉を正面につけ、下部の換気口には、菊池飛行場弾の開閉式換気とした。屋根は証言等から葺きとし、正面には荒尾二造遺存火薬庫を設けた。



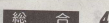
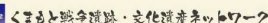
写真篇



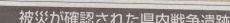
油倉庫は、建築物本体がコンクリートブロック積み上げ壁、屋根はコンクリート造、桁行15.4m、奥行4.3m、屋根高2.5mを測る。単独3部屋構造で、正面には片開鉄扉・換気孔、裏面には両開鉄製窓、下側に換気孔も設置されている。今回の地震で建物は西南側壁2力所が大きく崩落し、東側に緩く傾き、応急危険度判定では「危険」(赤旗)となった。



弾薬庫は建築物本体がコンクリート造で、桁行5.1m、梁行3.9m、屋根高3.1mを測り、入口に大型下屋を設けていた。屋根は軽量のトタン葺きで爆発時には、本体が壊れないような「放爆式」の設計である。今回の地震で入口上部に亀裂が入った。



旧陸軍隈庄飛行場など



- 「ネットワーク」が、熊本をまわった。解体が検討は地震に対する備えの大
- は解体の検討も始まって6月、実測して図面を作成し、施設の概要を記録として残す。
- 被害の恐れから詳細調査できない施設で、被害がさらに広がる可能性もあると
- 同ネットワークは被災した一般民衆の手紙やアルバムなど戦時資料の保存を進めたいと、事務局員も